

た。言葉は難しい。言葉の  
出手に尽くす真心で腹に落ち  
これからも一言の重みを十  
くいきたいと思っっている。

## 距離の季節

沢登清一郎（75歳）

は想像もしなかった断捨離と  
を歩む今、それは現実問題と  
迫っている。

ついていた道具類を筆頭に、所  
誌や新聞の切り抜き、雑多な  
たまた、賞状や盾などの品々  
一部を占領している。それら  
んできた歴史であり、生きた

の一つに油彩画がある。30代  
盛んに描いていた、小品から  
景画数点が、物置の中で眠っ

「い切つて処分！」とは思っ  
ると一歩が踏み出せない。  
しと、所属するシルバー人材

センターへ油彩画の提供を打診すると、快く  
受け入れてくれ、廊下の壁面にF50号の風景  
画が飾られることとなったのは、令和3年の  
ことだった。

そして令和5年の4月。センターは隣町に  
拠点を移し、新事務所での業務が始まった。  
そこで気になったのは、私が提供した油彩画  
である。飾る壁面がなければ、倉庫で眠っ  
いても仕方がない。

センター移転から数日後。業務依頼に応じ  
て訪れた際、真っ先に目にしたのは、階段室  
の壁面に飾られたわが作品だった。

かやの古民家と一人の農村の女性を描いた  
ものである。

さて、残りの数点はいかなる運命をたど  
るのか？ コロナの1日も早い収束を願いつ  
つ、断捨離の季節、真つただ中の私である。

## 児童見守り活動で

### 思うこと

埼玉県戸田市 栗原ハツ江（79歳）

週2回、ピンクのベストを着て、小旗を持  
つてシルバー人材センターが行う下校時の児  
童見守り活動に参加しています。

その日は元気な子どもたちに会える、セン  
ターの仲間に会える楽しみな日です。ベスト  
を着ているおかげで、交差点に立っていると  
知らない人から声を掛けてもらい恐縮してい  
ます。

高学年の児童には「お帰りなさい、さよう  
なら」と当たり前という言葉しか掛けられませ  
んが、低学年では子どもたちの方から声を掛け  
てくれるときもあります。先日は「ありがと  
うございます。暑いから水を飲んだ方がいい  
ですよ」という言葉を掛けられました。先生  
や家族の方から言われているのでしょうか。

えらいと思う気持ちと、恥ずかしい気持ち  
になり、頑張ろうと思いました。子どもたち  
は、青信号でも点滅すると渡りません。これ  
は見習いました。

何人かで楽しそうに話をしていると、どん  
な話をしているのか、学校のことが遊びのこ  
とか、会話の中に入りたくなります。

今は昔と違い、ランドセルがとてもカラフル  
。ランドセルを見ているだけでも楽しい。  
普段道路を歩いていると下校中の児童に会  
うときもあり、声を掛けたくりますが、ベ  
ストを着ていないので思いとどまります。

子どもたちを見ていると、心も体も、もう  
一度子どもに戻りたいと思うときがあります。  
元気な子どもたちに活力をもらい、ありがと  
うと言いたい気持ちです。